

細江カトリック教会だより 2,3 合併号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

四旬節

教会の典礼暦

には、クリスマスと復活祭という二つの大きな

峰があり、それぞれには、待降節と四旬節という準備期間が設けられています。

3月6日の灰の水曜日から始まる四旬節は、人となられた神の子イエスの生涯、特に後半エルサレムへの旅、敵意の渦まくエルサレムへ向かう、主に同行する恵みに満ちた季節です。

各人の人生には、春と秋、夏と冬があります。すべてが順調に進む時があれば一転思いがけない挫折を味わうこともあります。

一月末、自分を襲った大腿骨折により入院・手術という、今まで体験したことのない現実を担うことになりました。

多くの人の世話をし、健康だけが取り得と思ってきた自分が、突然多くの人のお世話になって、生きるという体験を「病院」という非日常的現実の中で味わってきました。

子どもの時に、親にすべて依存して生きたことをあらためて、しかも全く新しい認識を持って受けとめることができ、かかわりをもってくれた無数の人々への感謝の心で日一日を過ごしています。

考えてみれば、日常的現実とされている通常の生活の中で、どれ程多くの

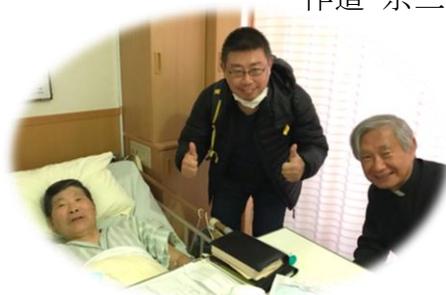


人の世話になっているか、それ以上に人間が生きるために必要なものすべてが、神によって与えられ準備されていることを実感として感じる事ができました。

挫折は終わりではありません。四旬節の間、記念する主の受難と十字架の死は、それが結末ではないこと、むしろ復活のいのちに与るための大きなステップとして、主自ら体験し、そして従うもの皆に望まれることだと、教えています。

それぞれの人生の中で経験する苦しみ、復活に至る一里塚であることを、四旬節の間くり返しお祈りいたしましょう。

作道 宗三 神父



*手術前の神父さま。百瀬神父さまと Br.村岡さまが駆けつけて。1/31



*「痛い～」と、お顔に出さない神父さま。下関リハビリテーション病院にて。2/18

下関での実習生活は・・・

フィリピンでの修練生活も一年半が過ぎました。修練長の住田神父から日本で教会を実践するように言われて、2年ぶりに日本に戻ってきました。

私は北海道帯広市のすぐ近くの町、芽室町の出身です。2014年4月3日の復活徹夜祭に北海道の帯広教会で洗礼を受けてから7年後、イエズス会に入会を認められて、フィリピンのマニラで2年間の修練生活に励んでいます。

私は山口県下関市に来たのは初めてです。源氏と平家の最後の合戦である「壇ノ浦の戦い」で有名な歴史のある下関に来られて、とても嬉しく思いました。

東京から新幹線に乗って、1月27日の夕方に下関市に到着、細江カトリック教会に滞在するため、作道神父にお会いしました。その2日後、予想外の出来事が起きました。作道神父が教会前の段差で転倒し、大腿骨を骨折され手術を受けることになりました。実習の責任者中井神父と相談して、作道神父がいない状況で、自分にできる限りのお手伝いをする事になりました。それからすぐにディン神父も東京から来られました。

私は教会実習として、おもにミサ中の分かち合い・集会祭儀の司式・天使幼稚園の朝礼のお話を担当しました。フィリピンでは貧しい人々の地域で、ミサ中に人々に聖体を配り、フィリピンの言語であるタガログ語で、ミサの説教の箇所では分かち合いをした経験がありました。しかし、集会祭儀の経験は全くありませんでしたので、彦島教会のシスターに聞きながら、集会祭儀の司式について学びました。集会祭儀と分かち合いは、私にとって、とても良い教会実習の経験になりました。

釜山トンボネット・「ハムケヘヨ」コンサートに行きました。朝鮮学校で勉強している生徒たち、韓国から来られた人たちが、韓国の伝統的な歌や踊りを披露してくれました。山口朝鮮初中級学校の文芸発表会にも行きました。ここでも生徒たちが歌や踊りの披露があり、韓国の文化に触れる機会を持つことができ、とても良かったです。

下関労働教育センターでは、在日朝鮮人の方々、韓国から来られた大学生の方々と接する機会もありました。

下関で過ごした1ヶ月間、防災研修のために教会信徒と下関消防防災学習館に行って、消火体験・煙避難訓練も体験し、ディン神父と一緒に海響館という水族館を見学することもできました。

細江教会で実習をすることができて、本当に良かったです。この良き経験を心から神さまに感謝しながら、残りの修練生活を頑張っていきたいと思えます。

イエズス会修練者 ^{こにし} 小丹枝 昌哉



*東京へ帰る前日、土曜日の朝ミサ後に、朝食を共にして歓談。

こちらで、いろんな事を体験なさったと思います。真夜中のお風呂の蛇口の故障は、驚きでしたね。アクシデントの連続で、お疲れさまでした。

「自分より困難な方々の力になりたい！救いたい！」と熱く語っておられ、いつも穏やかな笑顔が印象的でした。神さまのみ旨に沿うよう歩んでゆけますように、私たち一同お祈りしています。近藤

防災研修に参加して 2/3 (日)

平和アピール 1981

—聖ヨハネ・パウロ 2 世教皇

来日記念平和行事—

2/24 (日) 防府教会



＊防災に関する画像を真剣な眼差で見る参加者。

2月3日、火消くじら館に12名の参加で防災研修が行われました。種々の体験コースで消火体験は非常に大切だと痛感しました。消火器の日頃からの点検と初期消火の大切さ、火災が広がればすぐ避難するなど、スクリーンを見て研修体験をしたわけですが、各家庭でも冬場は特に気を付けたいものです。はたして実際にストーブなどの発火などあれば体験通り出来るかどうか、日頃から訓練することの大切さを学びました。



A. O

＊災害避難所の段ボール bed 体験？



＊消火器の使い方の指導を受ける。

＊避難非常袋

いつ災害が起きるかもしれません。日頃から備えておきましょう！



＊講話の前に、会場の防府教会でミサに与る。拝領後の典礼聖歌の後、ベトナムの青年たちがベトナム語の聖歌を歌う。この歌声を聴きながら、防府教会の信徒の交わりに感動する。

開かれた教会へ

～滞日外国人の隣人となる～

平和行事に参加して

2月24日カトリック防府教会で、「開かれた教会へ～滞日外国人の隣人となる」のテーマで、2人の講話がありました。

① ビスカルド篤子さん（大阪教区社会活動センター・シナピス事務局）シナピスは2002年に始まる。外国からの研修生・技能実習生・難民の方達が日本に来て、困ったことがあった時に、行政が支援してくれない為に年間150人の相談を受けているそうです。私たちは新聞を開いて悲惨な事件を見て、心を痛めますが、ページを閉じれば忘れてしまいます。困っている人が事務所に来られたら何もしないわけにはいかないでしょう。なんとかしなければと、行政にかかわり、教会の方にも対応していただいて、解決でき

ないことの方が多いのですが、その方たちが、出会えて良かったと言われ見届けられることを教会が出来るのではないのでしょうか？

② 岩本光弘（外国人技能実習生権利ネットワーク／北九州） 日本在留の外国籍の人たちは28種の資格を持つ人(医師・弁護士など)、日系外国人、技能実習生、留学生、結婚などで在留資格を持つ人などがいます。在日外国人の方達が、雇用側の不正（賃金不払い、低賃金）などによって、逃げ出した実習生の相談にのり、不法残留している現状をどのようにしたら良いのか、色々な問題にかかわっておられることを、話されました。外国の方への軽視と差別意識が根底にあり、これもまた、行政の助けはありません。岩本さんも教会に来ている外国の方に「元気に働いている？」「困っていることない？なんでも相談して。」と声かけして、必ず2人以上で話を聴いてあげること小教区で、取り組んでいただきたいと話されました。私たちの教会にも、外国の方がこれからも増えてくることでしょう。共に生きる為にも今回の講演はとても参考になった集いでした。

林 妙子



*大阪弁で、「なんでやねん！」という言葉が飛び交うような、笑いのある元気のよいビスカルド篤子さんのお話。「新聞を開いて、社会のいろいろな苦しみに共感しても、新聞を閉じると忘れてしまう・・・」と。「そう、そう」と自分自身うなずきながら反省する。

「私の後ろにはバチカンの教皇さま、神さまという大きなバックボーンがあるので、大丈夫！」と心強い言葉が、会場のみなを揺り動かしたように感じました。

私は声かけをして、その人その人に寄り添いたい。私にも神さまがついてくださっているのだから・・・。

開かれて、喜んでする協働体・小教区になってほしい。

最後に防府教会の朴神父さまは、「主のもとでの活動でなければならない」と話されました。

近藤

大事なお知らせ

*3月11日(月) 14:30

東日本大震災の祈りの集い

*3月24日(日) 9:00

四旬節黙想会

*聖週間前まで十字架の道行

(金曜日 10:20、19:00)

聖堂にて

ほっとひと息



画廊&カフェ

親友と長崎の旅をした。坂の街だから仕方がないことだが大浦天主堂には、天主堂まで、車イスで上がれなかった。ところが坂道の反対側の道に私のがっかりした気持ちを癒すカフェがふたりの目にはいって、中には、コーヒーの香りと、景色や小さな花が描かれた絵画がいっぱいだった。

コーヒーの名前が幕末期コーヒーという。

坂本竜馬もこの場所で妻おりょうさんとコーヒーを仲良く飲んだのだろうか。

藤本 幸枝

